ホワイトキス

彩瀬姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ホワイトキス

【Ｎコード】
Ｎ０６１０Ｇ

【作者名】
彩瀬姫

【あらすじ】
突然、知らない少年にキスされた私。でも少年は私を知っているみたいで……。少年――彼の正体はいったい？

「……っぅ…」

雪が降っていた時の一瞬の出来事。
私は何が起こったのかわからなくて固まってしまう。
突然目の前に現れた少年が、私にキスをした。
目の前にいる少年は、なぜ私にキスをしたの？
それを聞きたくても言葉に出ない。

「好きだよ」

彼は言った。私に言ったのだろうか？
でも私は、彼とは会ったことがない……はずなのに。
なぜそんなことが言えるんだろう。

「君とは会っているんだよ。君が覚えていなくても」

毎年この時期にね。とつけ加える。
会った覚えがない私は首を傾げる。

「いつ、会ったの？」

「去年は近くの公園で。君は僕にキスをしてくれた。暖かなキスを」

それはおかしい。
だって私は誰ともキスをしたことがなかったんだ。つい、さっきまでは。
そう、さっきのキスは私のファーストキス。

「君は僕の正体を知っているかい？」

知らないと首を振った。

「僕はね、消えてしまうんだよ。簡単に」

どうゆうことだろう？

人が消えるってことは何処かに行ってしまう、という意味だろうか？

それだったら私の知ったことではない。

でもなんだろう。この悲しい気持ちは。

さっきから本当に彼が消えてしまいそうな気がするのはなぜ？

「僕の正体が雪だからさ」

「えぇ？」

彼の言ったことに私は目を瞠る。

彼が雪？

それはどうゆうことだろう。

「僕は雪なんだ。君はいつもこの時期になると、雪にキスをするだろう」

確かに私は雪にキスをする。

キスというより、触れると言った方が正しい気がするけど。

ふわふわとひんやりした感じが好きだから。

「ほら、やっぱり…そうだろ？」

私の表情を見て彼は笑う。

あれ？ふと疑問に思ったことがある。

「貴方はなぜ、人間の形をしているの？」

彼が雪だとしたら、なぜ雪の形をしていないの。

彼は動じず、平然と答える。

「それは君が作ってくれたからさ」

「どうゆうこと？」

「昨日君は、僕に向かってこう言わなかったかい？≪雪が私の恋人だったらな≫ってさ」

言った。確かに言った。

母子家庭の私はいつも一人で過ごさなければいけない。母が働きに出ているから。

それが淋しくて、恋人でもいればなと思った。

一人は淋しい、一人は怖いから。

雪に自分の思いを念じた。

でも、それって……。

「君が望んだから、僕は君の恋人になりにきた」

私は彼に一直線に飛び込んでいった。

彼は、優しく抱きしめてくれる。

嬉しかった。私のために姿を変えて会いに来てくれたことが。

「君とためだけじゃないよ」

私の心を読んだかのように彼は言う。

「僕が君の恋人になりたかったんだ。ずっと好きだった」

私から自分から彼にキスをした。

彼の唇は雪のように、冷たくひんやりしているのに、私の唇は熱くなるばかり。

彼の唇が熔けてしまうんじゃないかと思った。

「ねぇ、なんて呼べばいいの？」

私は彼の名前を知らない。

「ユキ。そう呼んでくれればいいよ。君の名前は知ってるから言わなくていい」

「わかった。じゃあずっと、私の所にいてくれる？」

ユキは淋しそうな笑顔を向ける。

「それはできない。僕は雪だから溶けてしまうんだ」

「……」

私が泣きそうな顔をしていると、さっきよりもぎゅっと、強く抱きしめてくれる。

落ち着かせてくれる大きな腕。

「また来るよ、来年に。淋しかったらまた呼んで。……まぁ呼ばなくても、僕は君に会いに行くけどね。離れていても恋人だ」

私は涙をこらえながら笑顔を作って言った。

「うん、恋人だよ。また絶対来てね。ユキ」

ユキと私は、キスを交わす。このキスは約束だ。
また会うための約束のキス。
ひんやりしていて冷たい、雪のように白く甘い口付け――「ホワイトキス」

その後すぐにユキは解けてしまい、本当の雪に戻ってしまった。

―――ユキ。

来年も再来年もこれからもずっと、私の恋人でいて下さい。

（後書き）

拙い文ですが読んでくださって有難うございます。
とても読みにくかったと思います。
アドバイスを頂けると嬉しいです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0610g/

ホワイトキス

2010年10月27日08時31分発行